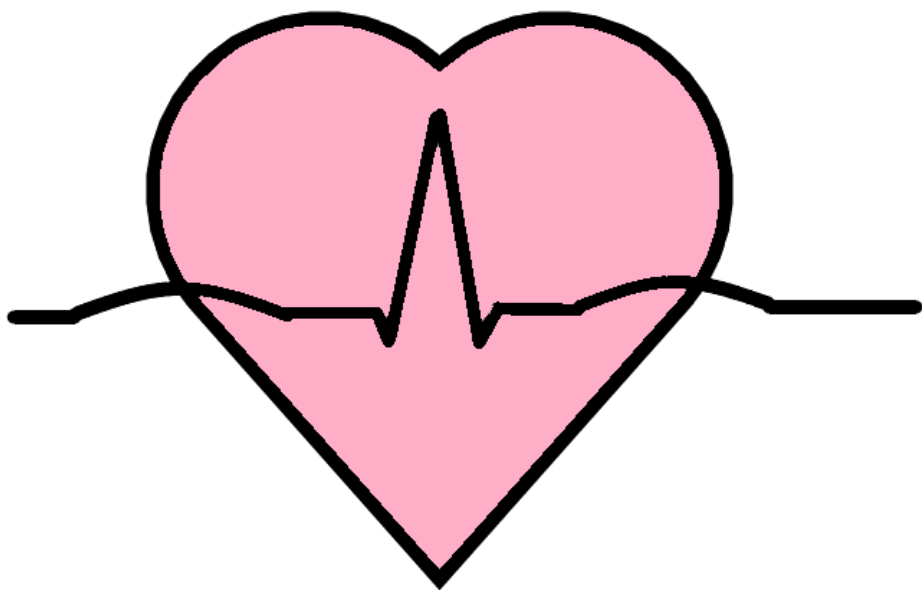


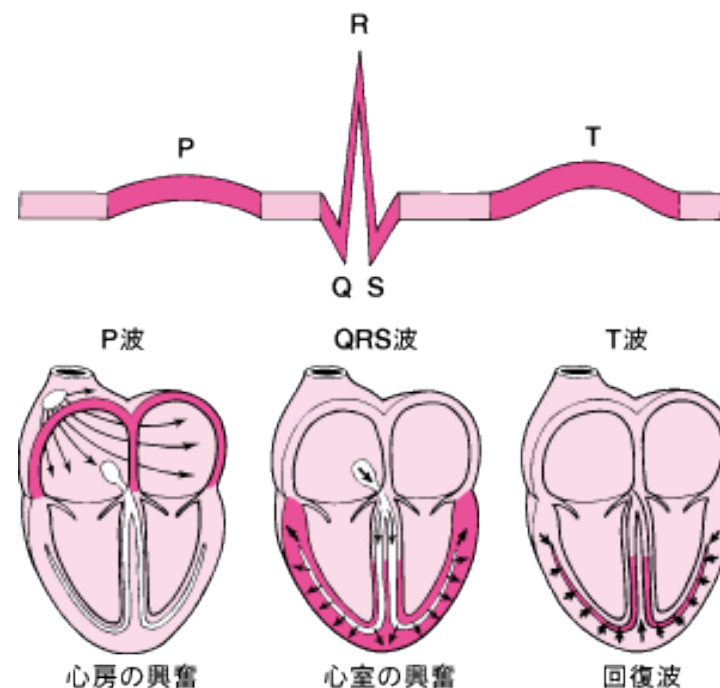
検査説明パンフレット 心電図検査



心電図とは？

心臓が血液を全身に送り出すために収縮する際に、神経等から「収縮しろ」という信号（**刺激**）が起こります。この時、極わずかな電圧が発生します（**活動電位**）。

この活動電位の変化を体の表面の様々な方向から記録したものが心電図です。心臓が収縮するための刺激は**心房**から**心室**へと順に伝わっていきます。このため、心電図には上向きまたは下向きの波形が現れます。心臓にきちんと刺激が伝わらないときや心臓が正常に収縮できないときに、心電図の波形に変化が現れます。



心電計から電流を流したり、検査に放射線を使用したりしていないので、体に害は全くありません。

心電図検査の種類と様子

1. 安静時心電図

ベッドに上を向いて寝てもらい、安静を保った状態で検査を行います。検査時間は、通常約 1 分前後で終了します。

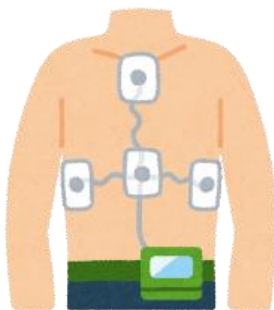
不整脈がある場合や検査内容によっては 5 分程度かかる場合もあります。



2. ホルター心電図（24 時間）

携帯用の小型心電計を用いて、長時間（24 時間）にわたり心電図を記録します。この心電図の解析を通して日常生活における心臓の動きを調べ、異常がないかを検査します。

10 分ほどで検査機器の装着は完了します。検査開始から 24 時間、眠るときも含めて装置をつけ続けます。



3. 運動負荷試験

運動中および運動の前後で心電図に変化が無いかを調べる検査です。運動によって心臓に負荷をかけることにより、安静時ではわからない異常（狭心症や不整脈など）を見つけることができます。



心電図検査でわかること

- ①順序良く刺激が伝わっているか（伝導障害が無いかな）
- ②リズム良く脈が打っているか（不整脈が無いかな）
- ③心臓が大きくなっていないか（心肥大や心拡大が無いかな）
- ④心臓に栄養を届ける血管が細くなったり詰まったりしていないか（心筋梗塞、狭心症が無いかな）

基準値

心拍数：60～100 回/分

正常な心拍



速い心拍



遅い心拍



不規則な心拍

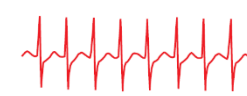


異常波形

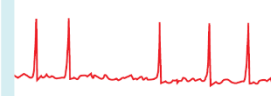
心室性期外収縮



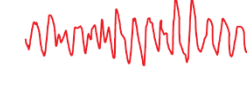
発作性上室頻拍症



心房細動



心室細動



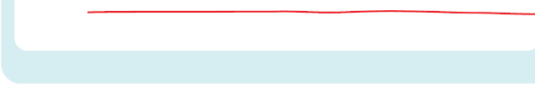
洞性徐拍



房室ブロック



心停止



心電図は心臓の病気をみつけるだけでなく、
治療の効果や薬の副作用がないかなどを
調べる目的もあります

